

オンライン日本語教室運営事業
業務完了報告書

令和 5年 4月14日

一般社団法人 北海道日本語センター

目次

1. はじめに	… 3
2. 事業の概要	… 3
2.1 TA参加のオンライン日本語教室	… 3
2.2 コースの概要	… 3
2.2.1 実施時期・講義回数・時間	… 3
2.2.2 対象者・定員・クラス構成	… 4
2.3 受講者	… 4
2.3.1 受講者数	… 4
2.3.2 受講者の在留資格	… 5
2.3.3 受講者の国籍	… 5
2.3.4 受講者の居住地	… 6
2.4 TA	… 7
2.4.1 TAの募集	… 7
2.4.2 TA応募者の属性	… 7
2.4.3 TAの採用人数	… 8
2.4.4 TAの役割	… 8
2.5 授業実施内容と出席人数	… 9
3. 受講者アンケート調査結果の概要	… 11
3.1 受講者の授業に対する評価	… 12
3.1.1 授業の難易度	… 12
3.1.2 授業の役立ち度	… 14
3.1.3 授業の満足度	… 17
3.1.4 日本人とのコミュニケーションを目的とした宿題	… 19
3.1.5 自己評価	… 20
3.2 受講者の授業外活動に対する評価	… 21
3.2.1 facebookでの活動	… 21
3.2.2 Google classroomでの活動	… 24
3.3 自由記述回答	… 25
4. TA アンケート・レポート結果の概要	… 25
4.1 TAの授業内活動	… 25
4.2 TAの授業外活動	… 25
4.3 外国人支援に関して意識するようになったこと、考えが変わったこと	… 29

4.4 TAの自己成長	…30
4.5 この経験をどのように生かすか	…30
4.6 自由記述回答	…30
5. 事業の成果	…31
5.1 受講者	…31
5.2 TA	…31
5.3 地域への波及効果	…31
5.3.1 2021年度	…31
5.3.2 2022年度	…32
6. 実績評価	…33
7. 改善点の検討	…33
7.1 受講対象者	…33
7.2 コース・定員	…33
7.3 TA	…34
7.4 SNSでの交流	…34
8. まとめ	…34

添付資料

- 1 広報先リスト（受講者、TA）
- 2 教科書郵送先リスト
- 3 受講者リスト（応募者、受講者、出席簿）
- 4 TAリスト（応募者、参加者、出席簿）
- 5 受講者アンケート
- 6 TA（振り返り、毎回報告まとめ、レポート）
- 7 募集チラシ（受講者、TA）
- 8 シラバス
9. 講義資料

1. はじめに

一般社団法人北海道日本語センターは、JICA 北海道の「オンライン日本語教室運営事業」を受託し、2022年10月から2023年4月まで「ほっかいどうオンライン日本語教室」を開講し、業務を行った。

この事業の目的は二つである。一つは、北海道内の地方部に在住する技能実習、特定技能の在留資格を持つ外国人労働者のうち、特に日本語学校や地域の日本語教室に通うことが困難である者へ日本語学習の機会を提供することにより、それらの外国人労働者の日本語能力向上、自律的な日本語学習の継続、ひいては外国人材の定着に繋げることである。もう一つは、講師以外の学習支援者(Teaching Assistant:以下 TA)が参加することにより、外国人の日本語能力向上や地域住民とのネットワーク形成、日本語学習支援者の裾野拡大も図り、これらを併せて多文化共生社会の実現に貢献することである。

この事業の完了にあたって、事業実績や成果について報告する。

2. 事業の概要

開講した「ほっかいどうオンライン日本語教室」は1期8回で3期に分けて行った。クラスは初級と中級の2レベルで、講師と共に、複数のTAが会話練習のために支援するオンライン授業であった。

2.1 TA参加のオンライン日本語教室

このオンライン日本語教室へのTAの参加は二つのことを目的として行われた。一つはTAが参加することによって、受講者との会話や交流の機会を増やすことである。もう一つは、日本語学習支援に関心がある人々が実際の日本語教室に参加することにより地域の日本語学習支援者としての活動を促すことである。

TAの活動としては、授業内では講師の指示のもと、少人数に分かれて、受講者との会話を中心とした学習サポートを行った。授業時間外ではfacebookやGoogle classroom等を利用し、写真の掲載、情報共有や受講者とのコメントのやりとりによる交流などを行った。

2.2 コースの概要

2.2.1 実施時期・講義回数・時間

2022年11月～2023年3月、1回1時間、1期8回で3期、計24時間

時間 19:30～20:30

1期: 11月 11日(金)、15日(火)、18日(金)、25日(金)

12月 2日(金)、9日(金)、13日(火)、16日(金)

2期: 1月 6日(金)、10日(火)、13日(金)、17日(火)、20日(金)、27日(金)

2月 3日(金)、7日(火)

3期: 2月 10日(金)、14日(火)、17日(金)、24日(金)、28日(火)

3月 3日(金)、10日(金)、14日(火)

2.2.2 対象者・定員・クラス構成

受講対象者を技能実習もしくは、特定技能の在留資格にて北海道内で働く者に限定し、定員各クラス 20 名として募集した。特に日本語学校へのアクセスが難しく、基礎的な日本語学習を必要とする者、地域のボランティア教室などでの学習が難しい者、道内の札幌市以外に在留する者を優先し、選定した。

- 1) 初級：受講開始時点で四技能において、CEFR 及び JF スタンダード A1、日本語能力試験（以下 JLPT）N5 相当の日本語能力がある、来日間もない者を想定し、主たる対象とした。
- 2) 中級：受講開始時点で四技能において、CEFR 及び JF スタンダード A2、JLPT N4 相当の日本語能力を身に付けており、より高いレベルでの日本語能力習得を目指す者を対象とした。

2.3 受講者

2.3.1 受講者数

1 期のはじめの申し込み者 142 人（内 2 期以降の参加希望者は 19 人）であった。このうち、道外 1 人、N3 以上の保持者 7 人、札幌市在住者 8 人を除き、1 期希望者 107 人に同意書を送付し、回答があったのは初級 61 人、中級 34 人であった。

2 期は 1 期からの継続受講者で定員を超えていたため、1 期開始時に 2 期からの参加希望で申し込みのあった者と、1 期の締め切りに間に合わなかった者へのみ個別に連絡した。その結果、2 期からの新規受講者は初級が 10 人、中級が 5 人であった。

3 期は初級の募集を行わず、事前に申し込みのあった 4 人を新規に受入れ、中級は新規募集を行って、4 人を受け入れた。参考として、2021 年度に実施した同事業受講登録者数を示す。

2022 年度

受講登録者	1 期	2 期	3 期	合計(延べ人数)
初級	61人	36人	29人	126人
中級	34人	30人	21人	85人
合計人数	95人	66人	50人	211人

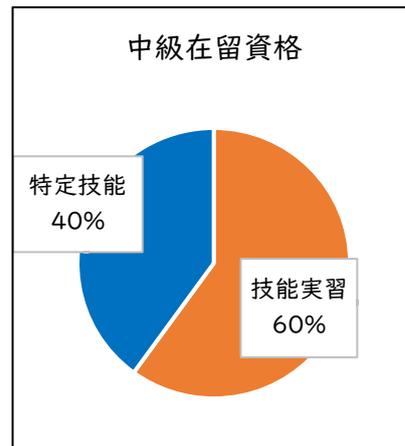
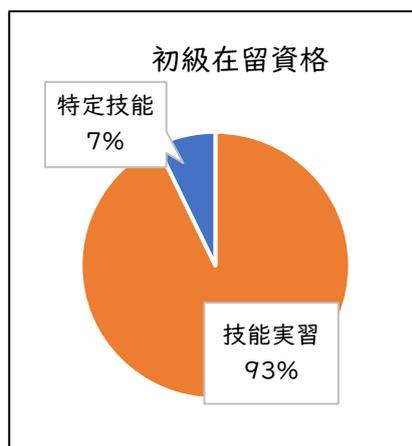
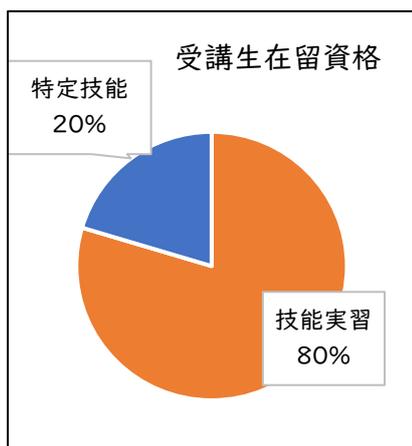
【参考】2021 年度

受講登録者	1 期	2 期	3 期	合計(延べ人数)
初級	15 人	20 人	23 人	58 人
中級	25 人	21 人	29 人	75 人
合計人数	40 人	41 人	52 人	133 人

今年度は、受講者の対象を技能実習、特定技能の在留資格を持っている人に限定したが、2021 年度に比べて、申し込み人数が多く、特に初級の受講登録者は昨年度の 15 人に対して 61 人と 4 倍となった。この理由として、一つは、募集期間が昨年は 2 週間で短かったという声があり、今年は 3 週間ほどに延ばしたことで、各地に周知されたことがあると考える。もう一つは、コロナ禍が落ち着き、外国人技能実習生などの来日が再開した時期と重なったことが考えられる。初級では、平仮名、カタカナがスムーズに読めないなど、N5 レベル以下の人も多かったことから、来日延期で日本語学習後、時間が経って来日する人も多く、日本語能力が職場で問題となり、この講座を勧められた人が多かったことが考えられる。

2.3.2 受講者の在留資格

	1期			2期			3期			1~3期 計(延べ人数)
	初級	中級	合計	初級	中級	合計	初級	中級	合計	
技能実習	57人	21人	78人	33人	16人	49人	27人	14人	41人	168人
特定技能	4人	13人	17人	3人	14人	17人	2人	7人	9人	43人
合計	61人	34人	95人	36人	30人	66人	29人	21人	50人	211人

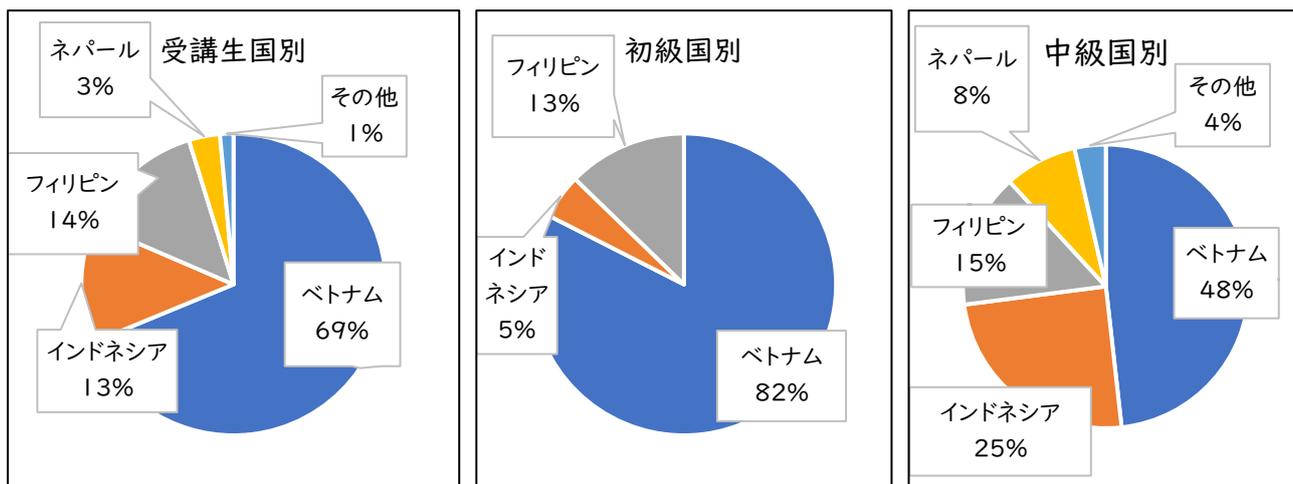


初級では技能実習が93%とほとんどであった。それに対して、中級では40%を特定技能が占めた。この中級の特定技能の受講者はほとんどが介護職であった。

2.3.3 受講者の国籍

出身国は12か国に及んだ。国別ではベトナムがもっとも多く、下記のとおりである。

国別	1期			2期			3期			1~3期 計(延べ人数)
	初級	中級	合計	初級	中級	合計	初級	中級	合計	
ベトナム	54人	17人	71人	28人	14人	42人	22人	10人	32人	145人
インドネシア	2人	7人	9人	2人	8人	10人	2人	6人	8人	27人
フィリピン	5人	4人	9人	6人	6人	12人	5人	3人	8人	29人
ネパール	0	3人	3人	0	2人	2人	0	2人	2人	7人
パキスタン	0	1人	1人	0	0	0	0	0	0	1人
タイ	0	1人	1人	0	0	0	0	0	0	1人
ウズベキスタン	0	1人	1人	0	0	0	0	0	0	1人
合計	61人	34人	95人	36人	30人	66人	29人	21人	50人	211人



全体として約70%がベトナムである。初級では80%を超えるが、中級では約半数である。中級は介護系のインドネシアの割合が25%と多かった。

2.3.4 受講者の居住地

受講者は日高地域を除き、全道各地に散らばっているが、雄武町からの参加者が1期12人、2期9人、3期12人の計33人と突出しており、オホーツク総合振興局管内が多い。これは、雄武町のTAが地域の技能実習生を受け入れている企業に直接声をかけたことによるものが大きい。次に多いのは1~3期合計で紋別市14人、函館市13人、小樽市10人と続く。ちなみに、2023年1月1日現在で在住外国人数は雄武町161人、紋別町504人である。

1期の苫小牧市からの受講者は自動車関連の企業の技能実習生であったが、24時間3交代の勤務で、1期開講後に勤務シフト変更があり、ほとんど参加できなかった。2期の知内町からの受講者は熱心に参加していたが、農業関係で3期は仕事が忙しくなるということで、2期のみ申し込みであった。

また、当初、札幌市からの申し込み者が8人いたが、札幌市は日本語ボランティア教室も多く、申し込み多数のため断った。ただし、2期と3期に関しては中級クラスのみ札幌からの受講者も受け入れた。

振興局ごとの受講者人数

振興局	1期(人)			2期(人)			3期(人)			1~3期(人) 計(延べ人数)
	初級	中級	合計	初級	中級	合計	初級	中級	合計	
オホーツク総合	23	2	25	14	2	16	17	2	19	60
渡島総合	11	4	15	10	4	14	2	3	5	34
釧路総合	5	5	10	2	4	6	0	1	1	17
宗谷総合	1	3	4	1	2	3	2	5	7	14
桧山	2	3	5	2	3	5	2	2	4	14
根室	3	4	7	1	2	3	1	1	2	12
石狩	3	0	3	2	2	4	1	2	3	10

後志総合	2	0	2	2	2	4	2	2	4	10
胆振総合	7	0	7	0	2	2	0	1	1	10
上川総合	1	5	6	1	1	2	1	1	2	10
十勝総合	0	6	6	0	3	3	0	1	1	10
空知総合	0	2	2	0	3	3	0	0	0	5
留萌	3	0	3	1	0	1	1	0	1	5
日高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2.4 TA

2.4.1 TAの募集

TAを募集するにあたって、外国人日本語学習者への支援や交流に関心がある北海道在住者であることを条件とし、日本語教師の資格及び外国語力は不問とした。具体的には次のように募集チラシに示した。

- ・地域の日本語教室で活動している人
- ・やさしい日本語講座や日本語学習支援者養成講座などを受講した人
- ・大学等で日本語教育を専攻している(専攻した)人
- ・日本語教師養成講座の受講者・修了者
- ・JICA 海外協力隊経験者

*但し、Zoomを使ったすべての授業や説明会に参加でき、Google classroom や SNS などを使って授業外でも受講者の支援ができる人

広報は当センター及び JICA 北海道の facebook、ホームページ、当センターが過去に行った研修などの参加者、北海道日本語教育ネットワークのメーリングリストなどと、JICA 北海道の関連先へ行った。

当初の募集人数は有償で4~8人であったが、受講者の応募人数が多かったため、有償8人、無償8人を受け入れた。

2.4.2 TA 応募者の属性

TA の応募は3期までを含めて36人であった。在住ベトナム人(1人)と中国人(1人)からの応募もあり、中国人は無償のTAを2期務めた。日本語教育などの経験については、やさしい日本語講座受講者と日本語教師養成講座修了者がそれぞれ約半数(18人)いた。日本語学習支援の経験者は約60%(22人)であり、地域の日本語教室で活動している人が約30%(11人)であった。また、JICA 海外協力隊の経験者が2人いた。

以下、TAの在住地域を表で示す。

在住市町村	振興局	人数
札幌市	石狩振興局	22人
江別市	石狩振興局	1人
栗山町	空知総合振興局	1人
由仁町	空知総合振興局	1人

函館市	渡島総合振興局	2人
雄武町	オホーツク総合振興局	2人
紋別市	オホーツク総合振興局	1人
釧路市	釧路総合振興局	2人
旭川市	上川総合振興局	1人
音更町	十勝総合振興局	1人
中標津町	根室振興局	1人
浦河町	日高振興局	1人

札幌市が22人、札幌近郊が3人で約70%を占めた。札幌市以外では、各振興局で1~2人で、9振興局内からの応募にとどまった。TAとしての参加の主な理由は、日本語学習支援や外国人との交流に関心があるという人が40%で、日本語を教えたり学んだ経験を活かしたい、経験を積みたいという人も40%と同数であった。

2.4.3 TAの採用人数

当初、受講者の各クラス定員を20人としたことで、受講者4~5人に1人のTAを想定し、各クラス4人、計8人の有償TAを受け入れる予定であった。しかし、募集を開始したところ100人を超える受講者となり、急遽無償のTAを各クラス4人ずつ受け入れることとし、地域などを考慮した有償TAの選考に漏れた人の中から無償で参加してくれる人を募った。

1期は有償と無償のTAを4人ずつ受け入れたが、初級のほうが受講者が多かったことから、2期以降、初級を多めに配置し、3期中級は欠員の補充を行わなかった。各期のTAの人数を表に示す。

	初級		中級	
	有償TA	無償TA	有償TA	無償TA
1期	4人	4人	4人	4人
2期	4人	5人	4人	4人
3期	4人	6人	4人	3人

2.4.4 TAの役割

TAの活動は2.1で述べたように、授業内での活動と授業外での活動に分けられる。授業内では、講師の指示のもとブレイクアウトルームで「会話の練習相手、宿題の発表を聞くこと」などを主として行った。特に1期の受講者が初級61人、中級34人と多かったため、少人数に分かれての会話練習などに大きな役割を果たした。

授業時間外ではfacebookやGoogle classroom等を利用し、受講者と写真やコメントのやりとりによる交流などを行った。当初はfacebookグループを受講者在住の地域で4グループ作成し、地域ごとの交流を目指した。しかし、1期では受講者からの書き込みが少なく、地域ごとの交流は活発にならなかった(要因については3.2受講者の授業外活動に対する評価に後述)。

2期以降は初級と中級でそれぞれ一つのグループにして、活発化を図った。その結果、投稿やコメントなどのやり取りが徐々に増え、交流が活発に行われるようになった。

2.5 授業実施内容と出席人数

【使用教科書】 初級：『TRY!日本語能力試験N4 文法から伸ばす日本語』アスク出版

中級：『TRY!日本語能力試験N3 文法から伸ばす日本語』アスク出版

今年度はコース終了後も自律的学習ができるように、教科書として、ベトナム語、英語、中国語の解説があるものを使用した。このテキストは、広く使われているものの一つで、購入も容易で、日本語能力試験 N3以上のレベルにも対応したものがあり、受講者の進度に合わせて学習を進めていくことができる。

授業は各課の文法、会話の練習などを教師が行い、その後、少人数で、TAとの会話練習などをさらに行った。

また、その日学習したテーマに基づいて、身近にいる日本人に質問して答えを聞いて来るという宿題を課し、次回にそれを発表してもらった。この宿題は、学んだ日本語を実際に使用すること、日本人とのコミュニケーションの機会を多くすること、話した内容を他者に分かりやすく伝える練習を目的としたものである。

さらに、受講者が自律的に学習できるような環境を工夫した。授業のスライド、ビデオなどを授業終了後に見られるようにし、これによって受講生が欠席した場合、復習したい場合にはいつでも学習できた。また、漢字や語彙のクイズを Google classroom にアップし、スマホなどからいつでも簡単に学習できるようにした。

各期の授業内容は下記のとおりである。

【1期】

初級

	月日	授業内容	受講者(61人)		TA出席者数	
			出席数	欠席届	有償4人	無償4人
1	11月11日(金)	あいさつ・自己紹介	43人	0人	4人	4人
2	11月15日(火)	すすめる	37人	6人	4人	4人
3	11月18日(金)	物を説明する	30人	7人	4人	3人
4	11月25日(金)	質問する	26人	3人	3人	3人
5	12月2日(金)	アドバイスする	19人	3人	4人	4人
6	12月9日(金)	紹介する	18人	5人	4人	4人
7	12月13日(火)	場所を説明する	20人	0人	4人	3人
8	12月16日(金)	スピーチ	17人	1人	4人	4人

中級

	月日	授業内容	受講者(34人)		TA出席者数	
			出席数	欠席届	有償4人	無償4人
1	11月11日(金)	自己紹介	28人	1人	4人	4人
2	11月15日(火)	旅行の話	25人	1人	4人	4人
3	11月18日(金)	私の体験	24人	1人	4人	3人
4	11月25日(金)	家族の話	19人	6人	4人	4人
5	12月2日(金)	私の生活	15人	2人	3人	4人

6	12月9日(金)	イベントのお知らせ	15人	1人	4人	4人
7	12月13日(火)	イベントの話	18人	1人	4人	4人
8	12月16日(金)	スピーチ	15人	0人	4人	4人

【2期】

初級

	月日	授業内容	受講者 36人		TA 出席者数	
			出席数	欠席届	有償4人	無償5人
1	1月6日(金)	自己紹介	22人	2人	4人	4人
2	1月10日(火)	心配なことを話す	23人	1人	4人	4人
3	1月13日(金)	希望を話す	20人	2人	4人	3人
4	1月17日(火)	事情を説明する	16人	6人	4人	4人
5	1月20日(金)	アドバイスができる	21人	1人	4人	4人
6	1月27日(金)	注意されたことを話す	20人	1人	4人	3人
7	2月3日(金)	計画を話す	24人	2人	4人	4人
8	2月7日(火)	スピーチ	24人	1人	4人	3人

中級

	月日	授業内容	受講者 30人		TA 出席者数	
			出席数	欠席届	有償4人	無償4人
1	1月6日(金)	友達との話し(1)	21人	2人	4人	4人
2	1月10日(火)	友達との話し(2)	18人	3人	3人	4人
3	1月13日(金)	料理(1)	10人	6人	3人	4人
4	1月17日(火)	料理(2)	15人	4人	4人	4人
5	1月20日(金)	意見を言う	12人	3人	4人	3人
6	1月27日(金)	発表を考える	11人	3人	4人	4人
7	2月3日(金)	不動産屋で	12人	1人	4人	4人
8	2月7日(火)	スピーチ	9人	2人	4人	3人

【3期】

初級

	月日	授業内容	受講者 29人		TA 出席者数	
			出席数	欠席届	有償4人	無償5人
1	2月10日(金)	自己紹介	17人	6人	4人	4人
2	2月14日(火)	自分の希望を言う	23人	3人	4人	5人
3	2月17日(金)	説明を理解する	20人	3人	4人	4人

4	2月24日(金)	丁寧な話①	15人	3人	3人	5人
5	2月28日(火)	丁寧な話②	16人	3人	3人	5人
6	3月3日(金)	丁寧な話③	20人	0人	4人	4人
7	3月10日(金)	注意することを聞いてわかる	12人	4人	4人	3人
8	3月14日(火)	スピーチ	19人	1人	4人	3人

中級

	月日	授業内容	受講者 21人		TA 出席者数	
			出席数	欠席届	有償 4人	無償 3人
1	2月10日(金)	丁寧な自己紹介	12人	1人	4人	3人
2	2月14日(火)	最近の出来事	12人	1人	4人	3人
3	2月17日(金)	私の好きなこと	12人	0人	4人	3人
4	2月24日(金)	将来の夢	11人	1人	4人	2人
5	2月28日(火)	会社の人	10人	1人	4人	3人
6	3月3日(金)	病気	9人	1人	3人	3人
7	3月10日(金)	困ったこと	11人	0人	4人	3人
8	3月14日(火)	スピーチ	7人	0人	4人	3人

*出席回数の少ない出席者数

出席回数	初級			中級		
	1期	2期	3期	1期	2期	3期
0	13人	6人	4人	3人	6人	6人
1~2	15人	4人	5人	5人	6人	3人

毎回授業のリマインドメールを出し、欠席が続いた場合は、出席を促すメールを出したが、返事がない人が多く、あまり効果はなかった。

欠席の理由としては、残業や、シフトの変更、一時帰国などであった。

毎回、授業は録画し、URLを受講者に送った。録画を見ていた人が各回数人いるので、欠席しても録画で勉強していた人もいられると思われる。また、授業で使った PowerPoint や資料、宿題などは、いつでも見られるように Google classroom にアップし、受講者に周知した。

また、授業内での活動の円滑さや参加意欲を高めるため、授業終了後に同じ母語の受講者同士で話す機会を2回設けた。

3. 受講者アンケート調査結果の概要

回答者数 初級：1期20人(受講者61人)、2期15人(受講者36人)、3期21人(受講者29人)

中級：1期13人(受講者34人)、2期8人(受講者30人)、3期10人(受講者21人)

アンケート結果などの詳細は添付資料5示すが、その主なものを述べる。

3.1 受講者の授業に対する評価

3.1.1 授業の難易度

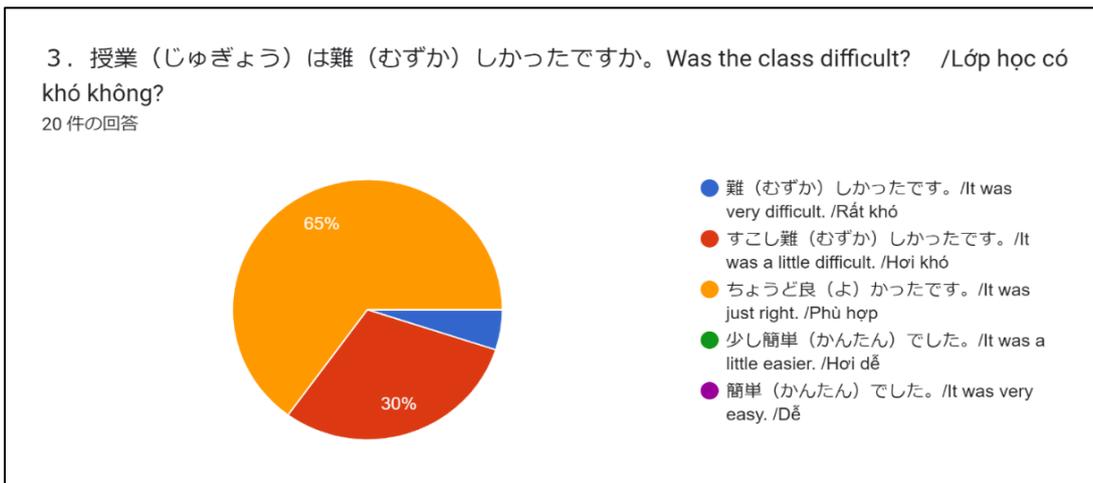
初級では1期で65%、2期で約64.3%、3期で47.6%が「ちょうど良かった」と答えている。クラスの受講者のレベルに幅があり、教科書の内容が徐々に難しくなっていくが、各期に新規加入の受講者がいることを考えると、ほぼ適切だったと考えられる。

中級では1期で84.6%、2期で50%、3期で77.8%が「ちょうど良かった」と答えている。2期で「ちょうど良かった」と答えた人が1期に比べて減った。これは、受講者から質問が多かった文法項目が数個あり、分かりにくかったためではないかと考える。しかし、「難しかった」と答えた人と「少し簡単だった」と答えた人が同数いたことから、やはりクラスの受講者のレベルに幅があることがうかがえる。初級と同様に、教科書の内容は徐々に難しくなり、各期に新規加入の受講者がいた。

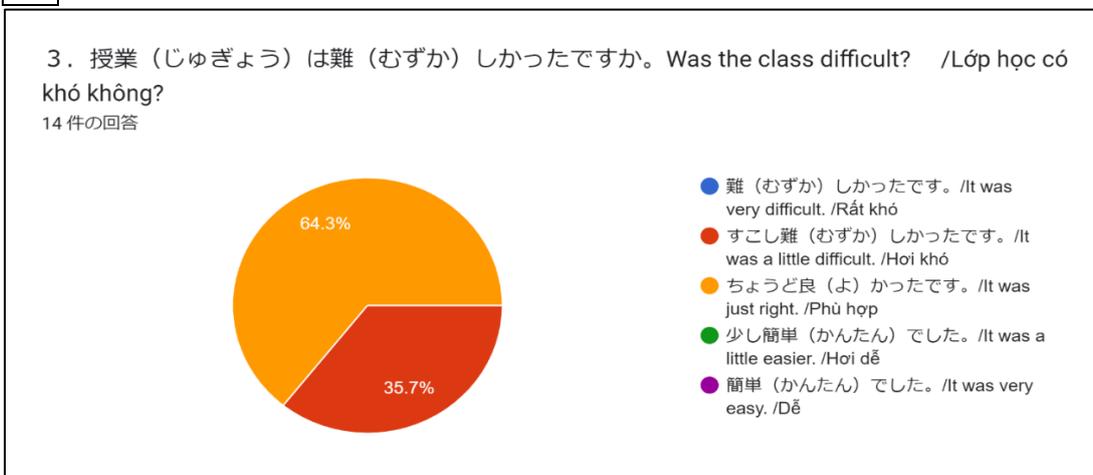
平均すると、初級は約60%、中級は70%が「ちょうど良かった」と答えているため、全体として、クラスの難易度は適切だったと考えられる。

【初級】

1期



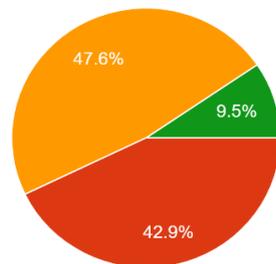
2期



3 期

3. 授業 (じゅぎょう) は難 (むずか) しかったですか。Was the class difficult? /Lớp học có khó không?

21 件の回答



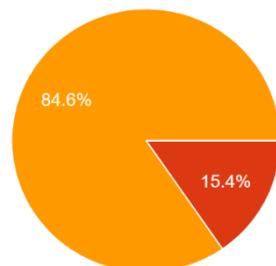
- 難 (むずか) かったです。/It was very difficult. /Rất khó
- すこし難 (むずか) かったです。/It was a little difficult. /Hơi khó
- ちょうど良 (よ) かったです。/It was just right. /Phù hợp
- 少し簡単 (かんたん) でした。/It was a little easier. /Hơi dễ
- 簡単 (かんたん) でした。/It was very easy. /Dễ

【中級】

1 期

3. 授業 (じゅぎょう) は難 (むずか) しかったですか。Was the class difficult? /Lớp học có khó không?

13 件の回答

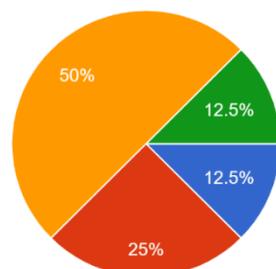


- 難 (むずか) かったです。/It was very difficult. /Rất khó
- すこし難 (むずか) かったです。/It was a little difficult. /Hơi khó
- ちょうど良 (よ) かったです。/It was just right. /Phù hợp
- 少し簡単 (かんたん) でした。/It was a little easier. /Hơi dễ
- 簡単 (かんたん) でした。/It was very easy. /Dễ

2 期

3. 授業 (じゅぎょう) は難 (むずか) しかったですか。Was the class difficult? /Lớp học có khó không?

8 件の回答

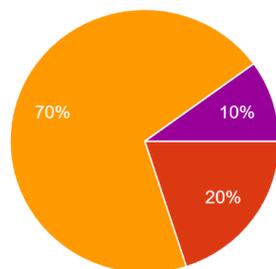


- 難 (むずか) かったです。/It was very difficult. /Rất khó
- すこし難 (むずか) かったです。/It was a little difficult. /Hơi khó
- ちょうど良 (よ) かったです。/It was just right. /Phù hợp
- 少し簡単 (かんたん) でした。/It was a little easier. /Hơi dễ
- 簡単 (かんたん) でした。/It was very easy. /Dễ

3 期

3. 授業（じゅぎょう）は難（むずか）しかったですか。Was the class difficult? /Lớp học có khó không?

10 件の回答



- 難（むずか）しかったです。/It was very difficult. /Rất khó
- すこし難（むずか）しかったです。/It was a little difficult. /Hơi khó
- ちょうど良（よ）かったです。/It was just right. /Phù hợp
- 少し簡単（かんたん）でした。/It was a little easier. /Hơi dễ
- 簡単（かんたん）でした。/It was very easy. /Dễ

3.1.2 授業の役立ち度

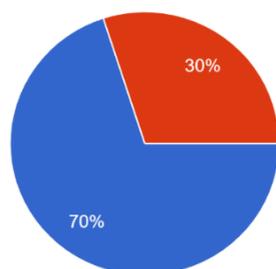
授業が役に立ったかという質問に、中級の2期を除いて、「そう思う」が70%以上であった。身近な人と話せるようなテーマを選び、クラス内で授業を行った結果、クラス外においても、周囲の日本人と話す宿題などが役立ったためであると考えられる。しかし、中級の2期目が「そう思う」と「だいたいそう思う」が半数ずつであったのは、期が進むごとに教科書の内容が徐々に難しくなっていく中で、この期で「難しかった」「少し難しかった」と答えた人が合わせて37.5%いたことによると考えられる。

【初級】

1 期

4. この授業（じゅぎょう）は役（やく）に立（た）ちましたか。/Was this class useful? /Lớp học này có hữu ích không?

20 件の回答

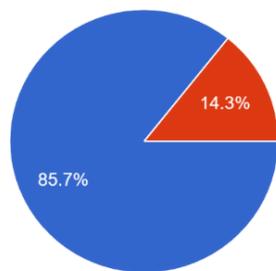


- そう思（おも）います。/exactly. /Rất hữu ích
- だいたいそう思（おも）います。/That's about right. /Hữu ích
- どちらとも言（い）えません。/I can't say either. /Không biết
- あまりそう思（おも）いません。/I don't think so much /Không hữu ích lắm.
- そう思（おも）いません。/I don't think so. /Không hữu ích.

2 期

4. この授業（じゅぎょう）は役（やく）に立（た）ちましたか。/Was this class useful? /Lớp học này có hữu ích không?

14 件の回答

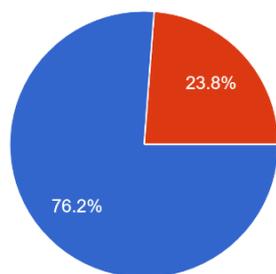


- そう思（おも）います。/exactly. /Rất hữu ích
- だいたいそう思（おも）います。/That's about right. /Hữu ích
- どちらとも言（い）えませんが。/I can't say either. /Không biết
- あまりそう思（おも）いません。/I don't think so much /Không hữu ích lắm.
- そう思（おも）いません。/I don't think so. /Không hữu ích.

3 期

4-1. この授業（じゅぎょう）は役（やく）に立（た）ちましたか。/Was this class useful? /Lớp học này có hữu ích không?

21 件の回答



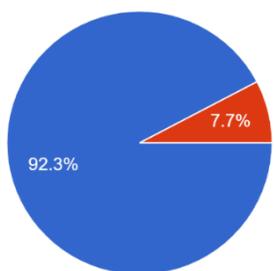
- そう思（おも）います。/exactly. /Rất hữu ích
- だいたいそう思（おも）います。/That's about right. /Hữu ích
- どちらとも言（い）えませんが。/I can't say either. /Không biết
- あまりそう思（おも）いません。/I don't think so much /Không hữu ích lắm.
- そう思（おも）いません。/I don't think so. /Không hữu ích.

【中級】

1 期

4. この授業（じゅぎょう）は役（やく）に立（た）ちましたか。/Was this class useful? /Lớp học này có hữu ích không?

13 件の回答

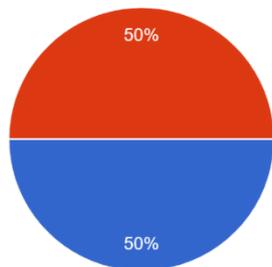


- そう思（おも）います。/exactly. /Rất hữu ích
- だいたいそう思（おも）います。/That's about right. /Hữu ích
- どちらとも言（い）えませんが。/I can't say either. /Không biết
- あまりそう思（おも）いません。/I don't think so much /Không hữu ích lắm.
- そう思（おも）いません。/I don't think so. /Không hữu ích.

2 期

4. この授業（じゅぎょう）は役（やく）に立（た）ちましたか。/Was this class useful? /Lớp học này có hữu ích không?

8 件の回答

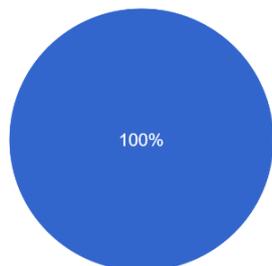


- So sánh (omote) imasu. /exactly. /Rất hữu ích
- Daitai so sánh (omote) imasu. /That's about right. /Hữu ích
- Dochiratomoniwa (i) emasen. /I can't say either. /Không biết
- Amari so sánh (omote) imasen. /I don't think so much /Không hữu ích lắm.
- So sánh (omote) imasen. /I don't think so. /Không hữu ích.

3 期

4. この授業（じゅぎょう）は役（やく）に立（た）ちましたか。/Was this class useful? /Lớp học này có hữu ích không?

10 件の回答



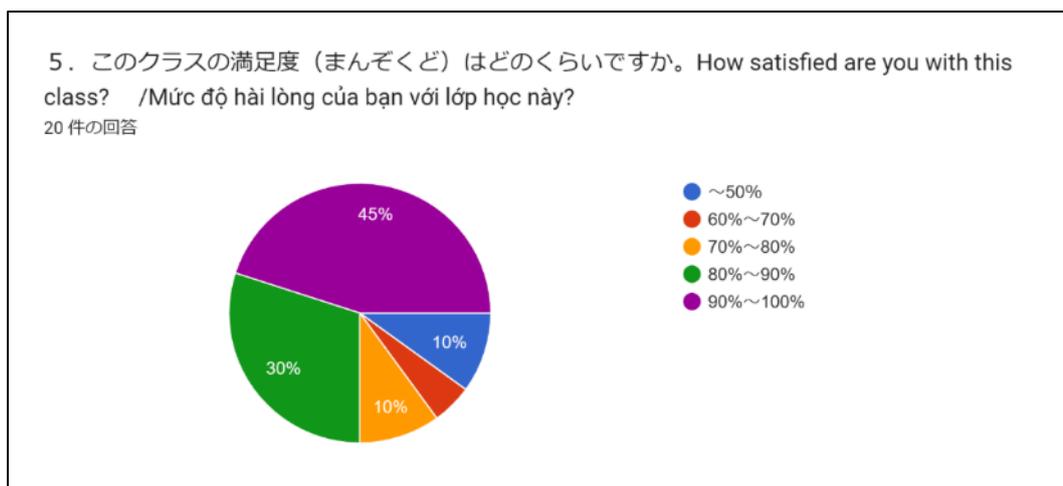
- So sánh (omote) imasu. /exactly. /Rất hữu ích
- Daitai so sánh (omote) imasu. /That's about right. /Hữu ích
- Dochiratomoniwa (i) emasen. /I can't say either. /Không biết
- Amari so sánh (omote) imasen. /I don't think so much /Không hữu ích lắm.
- So sánh (omote) imasen. /I don't think so. /Không hữu ích.

3.1.3 授業の満足度

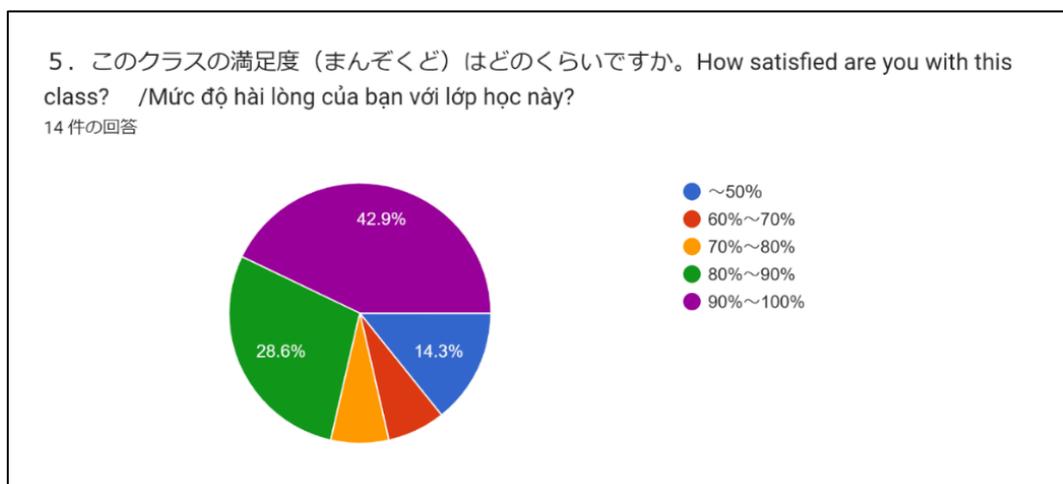
授業の満足度も中級の2期を除いておよそ80%が「満足度80%以上」である。2期よりも3期の方が少し満足度が高くなっていることを考えると、これは「役立ち度」と同様に、授業を受け続けることによって、満足度を感じるようになってきていると考える。

【初級】

1期



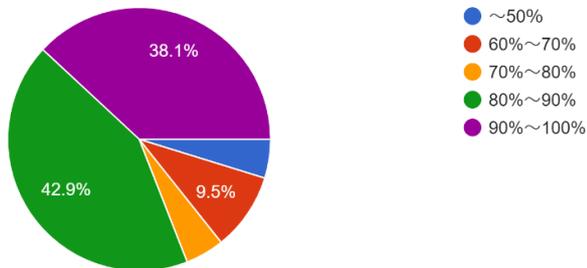
2期



3期

5. このクラスの満足度（まんぞくど）はどのくらいですか。 How satisfied are you with this class? /Mức độ hài lòng của bạn với lớp học này?

21件の回答

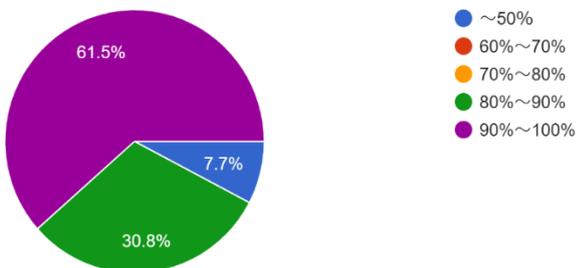


【中級】

1期

5. このクラスの満足度（まんぞくど）はどのくらいですか。 How satisfied are you with this class? /Mức độ hài lòng của bạn với lớp học này?

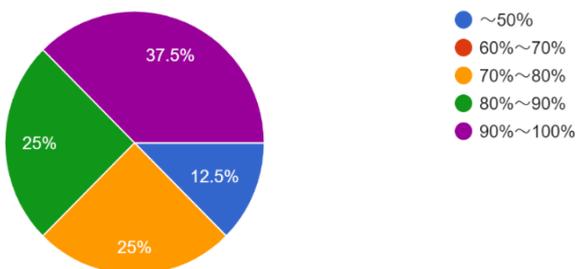
13件の回答



2期

5. このクラスの満足度（まんぞくど）はどのくらいですか。 How satisfied are you with this class? /Mức độ hài lòng của bạn với lớp học này?

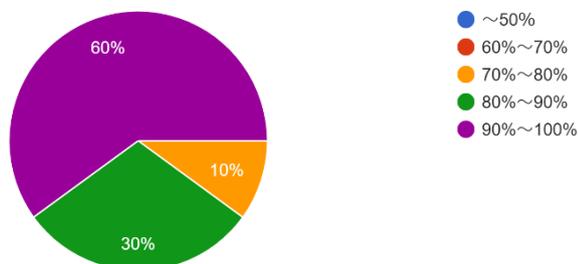
8件の回答



3期

5. このクラスの満足度（まんぞくど）はどのくらいですか。How satisfied are you with this class? /Mức độ hài lòng của bạn với lớp học này?

10件の回答



3.1.4 日本人とのコミュニケーションを目的とした宿題

本オンライン日本語教室では、ほぼ毎回の授業で、周囲の日本人に質問して答えてもらうという宿題を出した。この宿題の意図は、これをきっかけに日本人とのコミュニケーションを促すというものであった。

【宿題の例】

初級:何をしながら晩御飯を食べますか / 寿司を作ることができますか など

中級:北海道の方言を聞いてきてください / この町の有名なものはなんですか など

【初級】()内の数字はアンケート回答者数

回答	1期(20人)	2期(15人)	3期(21人)
日本人に聞くのは嫌だった	0人	0人	0人
日本人に聞くのはおもしろかった	15人	13人	16人
日本人に聞いてもあまり答えてもらえなかった	0人	1人	1人
日本人に聞くといろいろな話げできた	11人	4人	10人
宿題や勉強していることをほめて貰えた	2人	1人	3人
日本語が上手になったと言われた	3人	1人	0人

【中級】()内の数字はアンケート回答者数

答え	1期(13人)	2期(8人)	3期(10人)
日本人に聞くのは嫌だった	0人	1人	0人
日本人に聞くのはおもしろかった	10人	4人	6人
日本人に聞いてもあまり答えてもらえなかった	1人	3人	1人
日本人に聞くといろいろな話げできた	8人	2人	7人
宿題や勉強していることをほめて貰えた	6人	2人	5人
日本語が上手になったと言われた	6人	0人	3人

「いろいろな話ができた」、「おもしろかった」という答えが多かったことは、こちらの意図したとおり、授業内だけの日本語学習で終わることなく、これをきっかけに日本語で日本人とのコミュニケーションを楽しむことができた結果であると考えます。また、日本人から勉強していることや、日本語の上達をほめて貰っていることは、日本語学習のモチベーションの向上に大きく役立っているのではないかと考えられる。

3.1.5 自己評価

この教室を受講して自身の日本語がどのように変わったかについても質問した結果（複数回答）を示す。この結果から、話したり、聞いたり、文法がよくわかり、これによってもっと勉強したいと思うようになったという前向きな答えが多かった。レベル差があったことから、「前と変わらない」「前より難しいと思うようになった」という人も若干名いた。

【初級】（ ）内の数字はアンケート回答者数

回答	1期(20人)	2期(15人)	3期(21人)
前より話すことができるようになりました	17人	10人	11人
前より聞いてわかるようになりました	12人	9人	12人
新しい文法が分かりました	10人	10人	5人
日本語をもっと勉強したいと思うようになりました	6人	8人	9人
前より日本語は難しいと思うようになりました	1人	0人	1人
前と変わりません	0人	0人	0人

【中級】（ ）内の数字はアンケート回答者数

回答	1期(13人)	2期(8人)	3期(10人)
前より話すことができるようになりました	11人	5人	9人
前より聞いてわかるようになりました	7人	7人	6人
新しい文法が分かりました	10人	5人	7人
日本語をもっと勉強したいと思うようになりました	9人	4人	7人
前より日本語は難しいと思うようになりました	2人	1人	1人
前と変わりません	0人	1人	0人

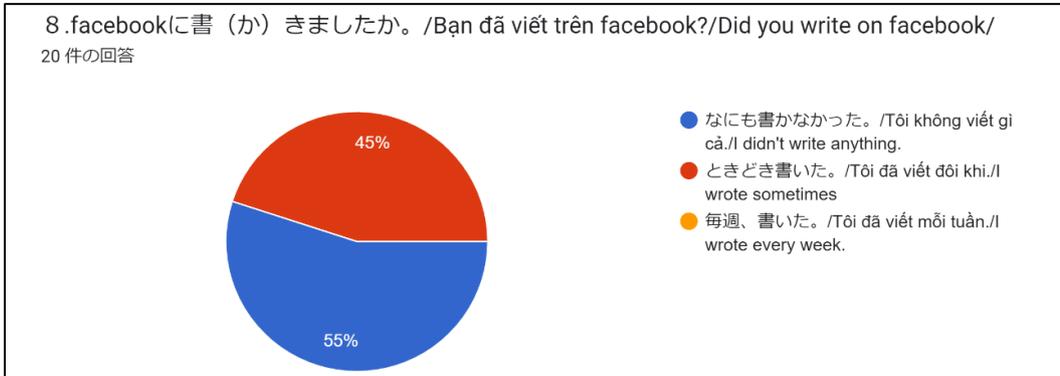
*（ ）内の数字はアンケート回答者数

3.2 受講者の授業外活動に対する評価

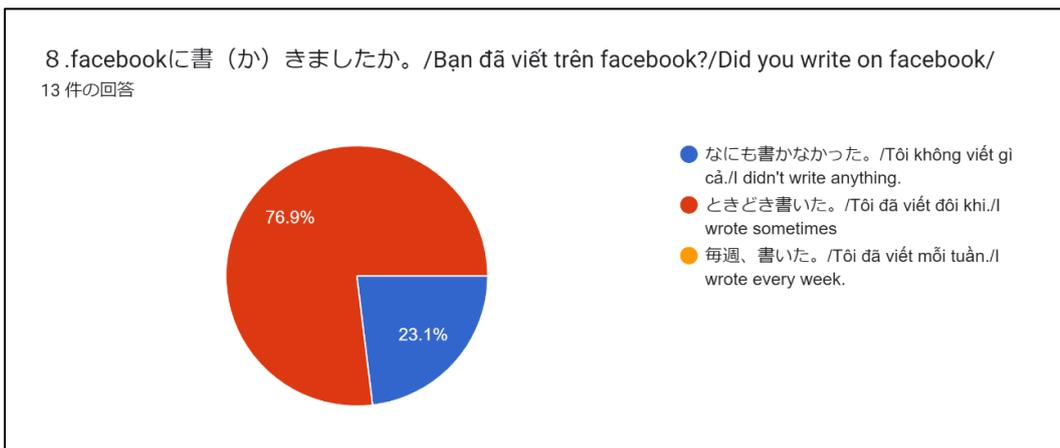
3.2.1 facebook での活動

1 期

【初級】



【中級】

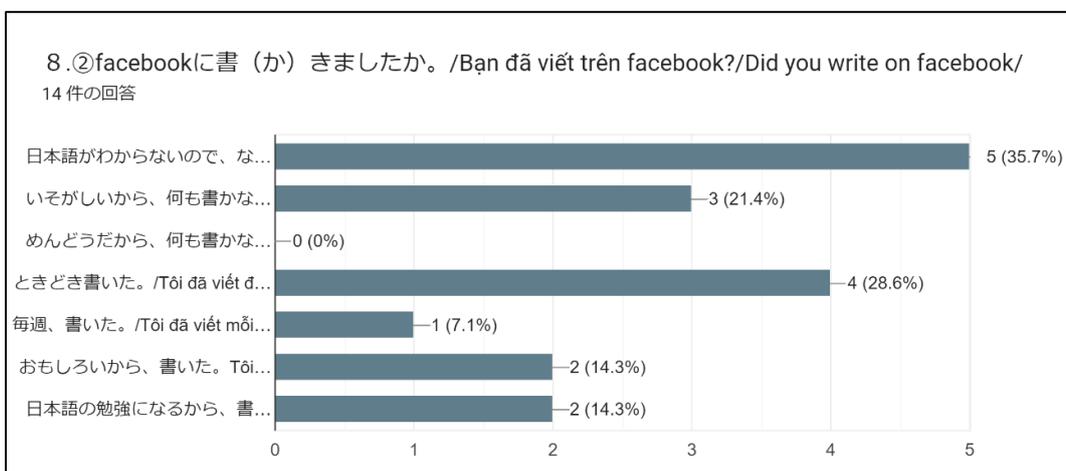
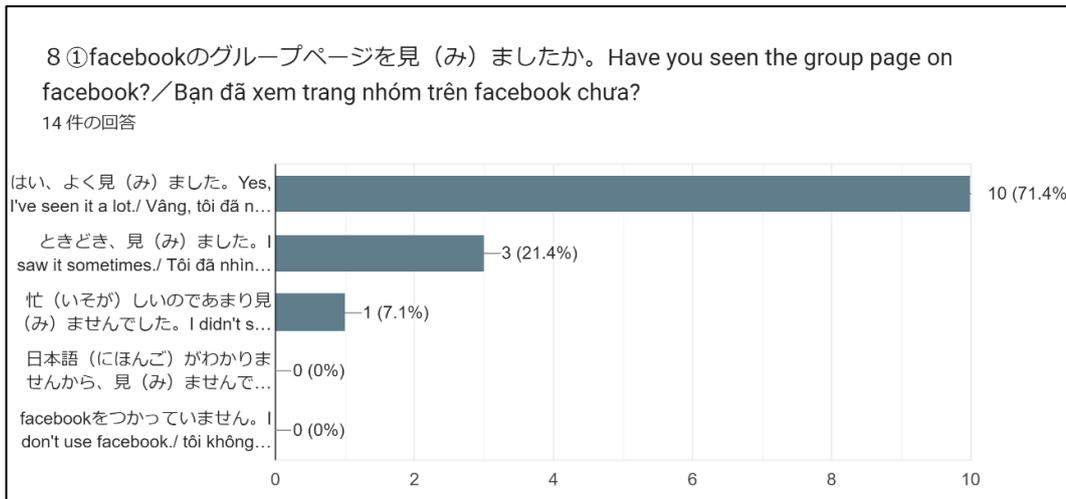


初級では半数以上、中級も約四分の一の回答者が何も書かなかったと回答しており、その他は書いてもときどきであった。しかし、中には「日本語の勉強になるので書いている」と、コメントしている者もいた。

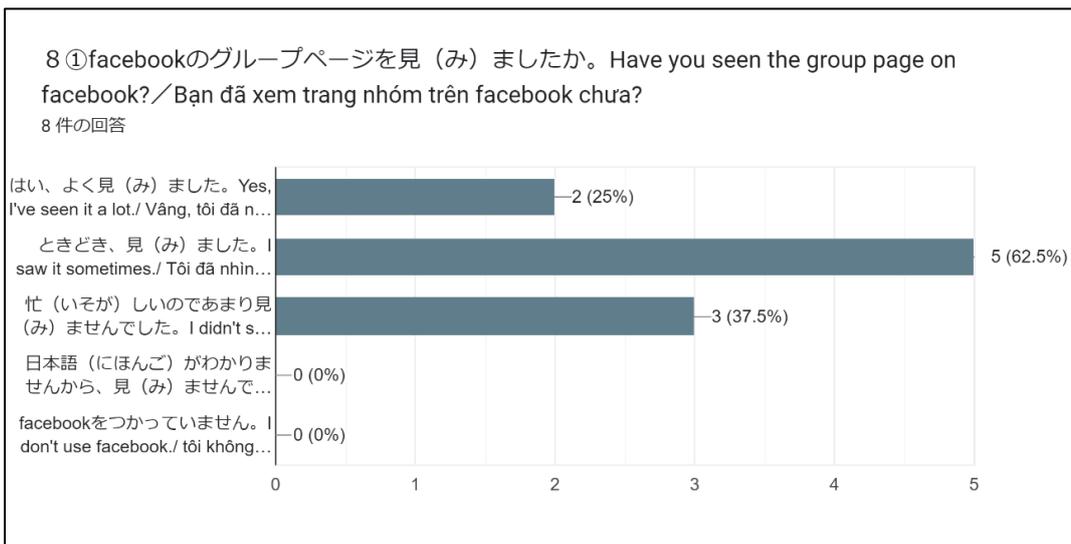
書かなくても見ている受講者もいることから、2 期以降のアンケートの質問に「facebook グループのページを見ましたか」も付け加えた。

2期

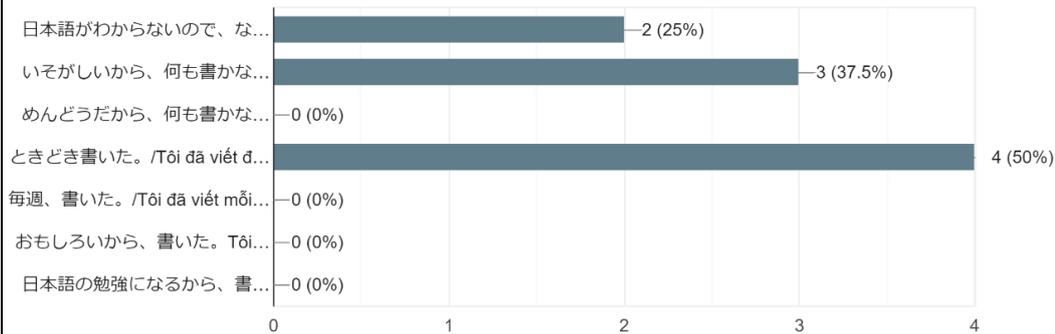
【初級】



【中級】



8.②facebookに書(か)きましたか。/Bạn đã viết trên facebook?/Did you write on facebook/
8件の回答

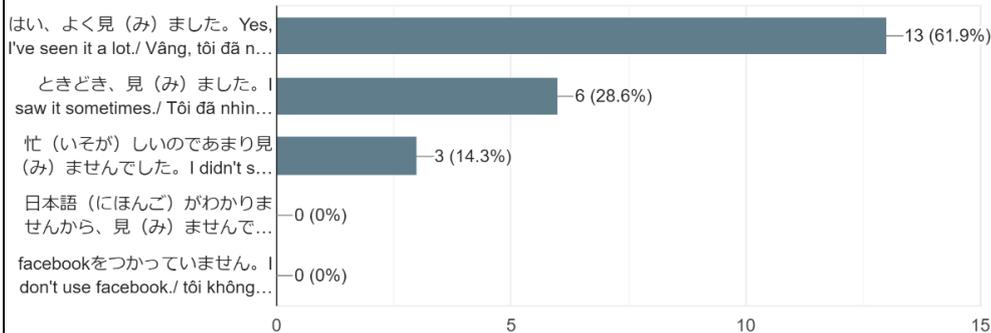


3期

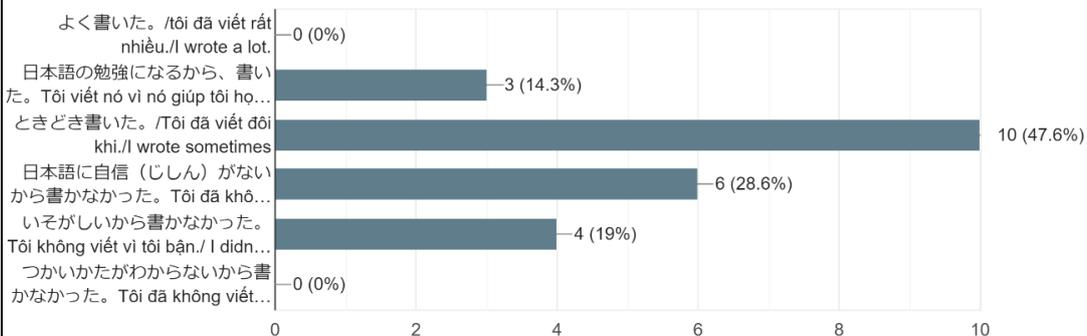
【初級】

8①facebookのグループページを見(み)ましたか。Have you seen the group page on
facebook?/Bạn đã xem trang nhóm trên facebook chưa?

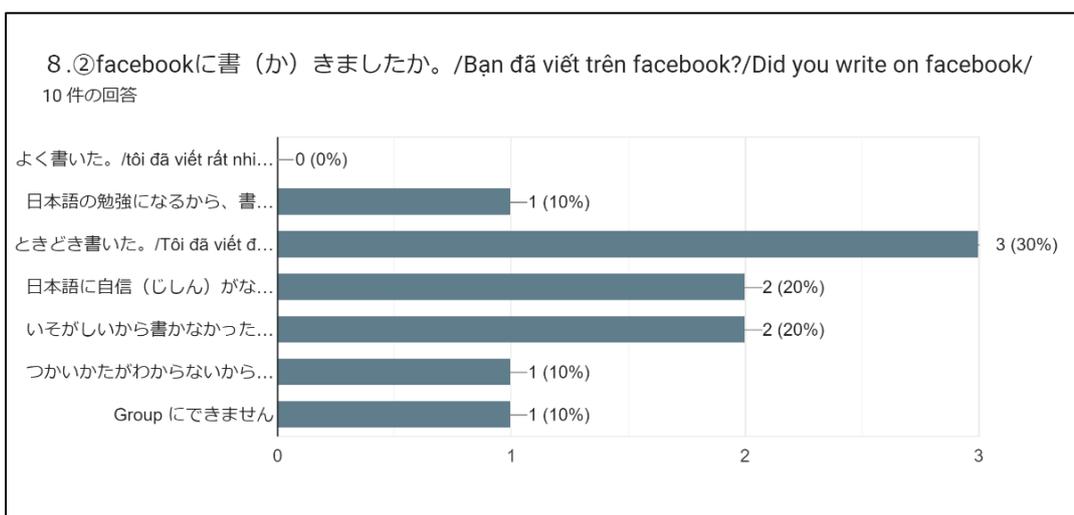
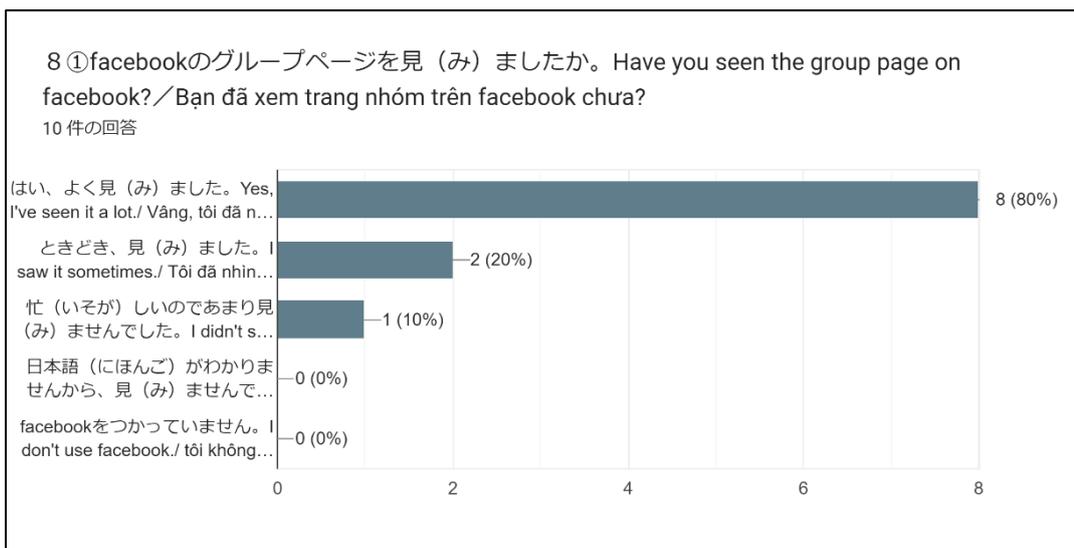
21件の回答



8.②facebookに書(か)きましたか。/Bạn đã viết trên facebook?/Did you write on facebook/
21件の回答



【中級】



全体として「よく見ました」「ときどき見ました」を合わせると90%ほどであるが、1期に比べ3期のほうが「よく見ました」という人が増えている。「ときどき書いた」という人も初級の3期で半分ほど大きく増えている。書かなかった人の理由としては、面倒だからということではなく、忙しいからや、日本語で書くことにまだ自信がないためと回答する人が多かったが、徐々にこの活動に慣れ、活動が活発になっていった。

また、この活動が「楽しかった」という人が70%近くであり、「日本語の勉強になった」という人も半数近くいた。「コメントをもらって嬉しかった」という人もいたので、慣れるに従って交流を楽しんでいる様子が見えた。

3.2.2 Google classroomでの活動

初級、中級の両クラスでは、1期から3期に渡り、毎回授業で使用したスライドをアップし、初級は簡単な漢字やカタカナ、中級は語彙と漢字のクイズをあげている。見なかったと答えたのは初級で各期1人、中級は2期の1人だけである。見なかったと答えた人以外は、ほぼ全員が役に立ったと答えている。欠席者や復習のためのビデオの再生数はほとんどなく、Google classroomにあるスライドが役に立ったと思っているようである。3期を通して、時間のかかる録画を見るのではなく、気軽に見られるスライドを見ていたのではないかと考えられる。

3.3 自由記述回答

「I really like study Japanese so this class is very useful and help me to study Japanese. (私は日本語を勉強するのがとても好きなので、このクラスはとても役に立ち、日本語を勉強する手助けになります。)', 「Lớp học rất vui và hữu ích (クラスは楽しく役に立ちます。)」などのように、楽しい、役に立つなどの声がほとんどであった。

「Muốn được học nhiều hơn để có thể ôn luyện. 1 tuần 2 ngày thì tốt (実践できるようにもっと学びたい。1週間2日がいい。)」のようにもっと学びたいという意見もあった。

3期では「It's really help me to improve my Japanese skill, I hope I can learn more. (日本語のスキルを向上させるのに本当に役立ちます。もっと学びたいと思います。)」 「もっと自信できます (原文のまま。)」 「My Japanese speaking is also improve. (日本語が上達しました。)」というように、学習の成果を実感している声があった。

4. TA アンケート・レポート結果の概要

TA は授業内の活動については毎回、授業外活動については有償の TA にのみ各期 4 回の報告を行った。また、各ターム終了時に、有償 TA は自己の成長など振り返りを含むレポートを提出した。以下にその主な内容をまとめて述べる。

4.1 TA の授業内活動

TA の授業内での活動は、主としてブレイクアウトルームを利用し少人数で行われた。当初は初級、中級とも受講者間にレベル差があり、話すのに時間がかかる人と、かからない人の差をどのようにするのか戸惑った人が多かったようである。受講者の理解できる語彙や、やさしい日本語を使う、ゆっくり分かりやすく発音する、その日の話題が広がるように事前に準備しておくなど、それぞれが工夫を重ねた。3期には受講者も話すことに慣れ、ブレイクアウトルームでの人数も少なくなり会話を楽しめるようになっていた。

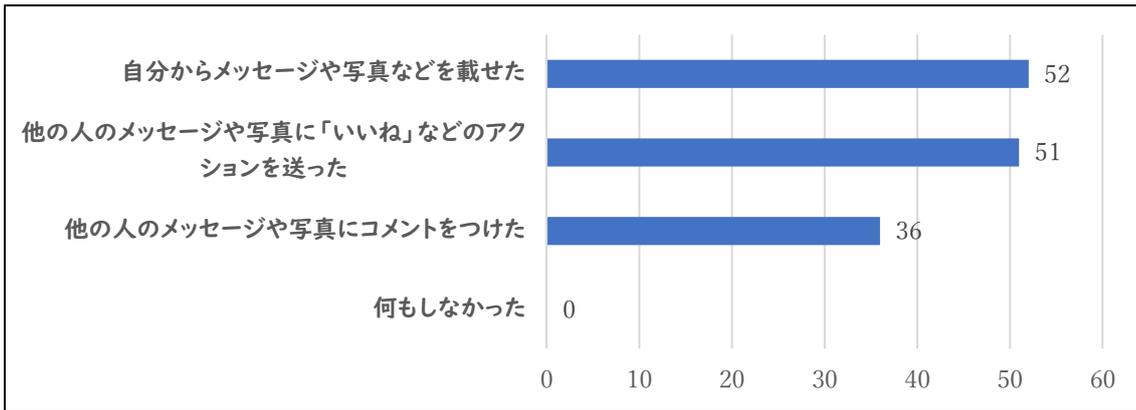
4.2 TA の授業外活動

TA は授業外での活動として、facebook や Google classroom で受講者との交流を行った。当初は各クラスで、地域ごとに四つの facebook グループで交流を行う予定であったが、受講者からの投稿が少なく、2期からは初級、中級それぞれ一つの facebook グループで交流を行った。

当初は、TA が投稿しても受講者からの返事もあまりなく、中級でも宿題として「週末にしたこと」を書くように促したが、あまり効果はなかった。TA も受講者が関心を持ちそうな話題を探し、季節や料理、町の風景などの身近なこと、お正月や季節の行事などの日本文化的なことなどいろいろ模索して投稿していた。日本文化的な話題については返信や既読の数が多かった。

有償 TA の 2 期と 3 期の活動報告を見ると活動回数延べ 62 回中、自分からメッセージや写真を載せたり、アクションを送った回数は 80% を超えていた。

・facebook のグループページでどんなことをしましたか(複数回答可)



また、授業内で料理の作り方を説明する会話をを行った際は、受講者から教えてもらった料理を TA が実際に作り、その写真を投稿したところ、それに対してコメントがつくという交流があった。これは、「授業→授業内の TA との会話→授業外での交流」というサイクルがうまくいった事例である。

1月20日

みなさん、こんばんは。
私は [redacted] さんが 教えてくれた 「トミース コール」というインドネシアの料理を つくりました。
材料は キャベツと にんじんと とうもろこしです。
フライパンに 油を入れてから いためます。
さとうと 鶏がらスープ(chicken broth powder)と こしょうを入れます。
もう少し いためて 完成(かんせい)です。
とてもかんたんで おいしかったです(^^)

[redacted] さん、レシピが まちがっていたら おしえてくださいね！

DSC_1904.JPG

DSC_1906.JPG
画像

👤 クラスのコメント 4 件

 1月21日
美味そうですね先生、調理してみありがとうございました

 1月21日
こちらこそ、おいしい料理のレシピを おしえてくれて ありがとうございます。facebookに 鶏のつくねの レシピをのせました。 見てみてくださいね！(^.^)

 1月24日
Wao 😊 すごいね先生

 1月25日
やさいが多くて、栄養（えいよう）がたくさんとれますね。

さらに、地震の後に TA から受講者に対して安否を気遣う投稿や停電の際に、近くの避難所を知らせる投稿などもあった。こうした投稿は災害時に外国籍住民に安心をもたらすことが期待される。

さんの投稿

じしんが ありましたか？
みなさんの まちは だいじょうぶですか？

👍👎👏 10 コメント4件 25人が既読

👍 いいね! 💬 コメントする 📧 送信

👇 トップコメント

 せんせい!おはようございます👏😊。よいしゅうまつを👏
ねてたからゼンゼンわからん😭、じしんはどれくらい?
いいね! 返信する 5週間 編集済み

 管理者
さん、こんにちは。きのうのじしんのおおきさは、
M6.1 (マグニチュード6.1) でした。大 (おお) きいです😭
中標津 (なかしべつ) は、じしんのぼしょが ちかいので、とても ゆれました
いいね! 返信する 5週間 🙏🙏 3

 ないです。👍 2
いいね! 返信する 5週間



管理者 - 2022年12月24日 · 🌐



みなさんこんにちは
 とても、てんきがわるかったですね❄️
 もんべつ、おこっぺ、にしおこっぺ、おうむ、はていでん👉❌でした
 よるは、さむかったですか？
 まだ、でんきが、つかえないひとは、ひなんじよに、いきましょう。
 けいたいでんわ📱のじゅうでんも、できますよ



😓😓 あなた、他2人

8人が既読





4.3 外国人支援に関して意識するようになったこと、考えが変わったこと

技能実習生と身近に接したことにより、仕事をしながら日本語の勉強も頑張っていることがよくわかり、教室以外でも何かしてあげたいと思った人もいる。また、本教室以外の時間で、TA の居住地区と同じ地区に住む受講者と対面で会うことを考えたり、地域に住む技能実習生に会ったら挨拶をするようにした人もいる。実際に関わることで技能実習や特定技能の資格で働く外国人の実態を知ることができ、日本語支援に何が大事なのかを考えるようになったと答えた人もいる。

ある TA は地元地域での取り組みが気になり、問い合わせたところ、技能実習生や特定技能の人に何も施策がないことが分かったと述べている。この教室への参加によって各地域での日本語学習支援の必要性を感じ行動に一步踏み出したようである。他の TA がその地域で出来る外国人支援を独自にしている話を聞き、刺激を受けたと述べた人もいる。

4.4 TAの自己成長

「この日本語教室での活動により、新たな経験ができ、これをきっかけに自分の活動の範囲が広がった。」「技能実習生の実態を知ることで、北海道に住む外国人の存在を意識して自分でできることを見つけて行きたい。」と考える人もいた。また、個人的な変化として、地元での学習支援をやりたいと考え始めたことを挙げている TA もいる。大学生のTAの一人は「日本語で日本語を学ぶ」ということが自分の専攻である英語教育の学習方法と共通点があることから、大きな学びを得たと述べている。

また、講師のオンラインの授業を実際に見ることによって、実際にはどう教えるのか、どのような例文を作るのかなど具体的なことが分かり、日本語を実際に教えるということが分かったようである。TA という立場で日本語の授業に参加したことで、「学んだことを実践する場、自分ならこう教えたいなどを考える場であった。」「統計などの情報だけで知っていた在住外国人の存在が、実際に話をすることでどんな暮らしをしているのかや、仕事環境、今の気持ちを知ることができました。受講者の生の声を聞くことで、日本語教師として今何が求められているのかを考えるきっかけとなりました。」と答えた人がいるように、実践を重ねることによって成長を感じているようだ。

今後の活動については地元で働く実習生などとかかわる機会を持ちたい、交流の場を作りたいと考えた人がほとんどである。この経験が全道各地での学習支援の場が広がるきっかけになることが期待できる。

4.5 この経験をどのように生かすか

地元で働く実習生などとかかわる機会を持ちたい、交流の場を作りたいと考えた人がほとんどである。地域で日本語学習支援教室ができるのか、周囲の人に相談しているという積極的な声や、ボランティア活動や、関わっている日本語学習支援教室などで生かしたいという他に、「新たな教室の設立を考えている。」「海外などで日本語を教えるのに役立てたい。」など、積極的に学んだことを活かしていきたいと考えているようである。全道各地でこうした学習支援の場が広がるきっかけになった。

4.6 自由記述回答

多くの人は楽しく参加できたことについて述べているが、「この教室に参加するまでは、外国人と関わるのが少し遠い気がしていたが、この教室をきっかけに、facebook など使ってやりとりができるようになり、身近なものに感じ、これからも交流できたらと思っています。」というように、これまでより外国人を身近に感じるようになってきた人もいる。また、「読めない漢字」の話をしていた時、「会社からもらった『介護教本』（日本人向けの分厚い教科書です）を見せて、漢字だらけで全然わからないと嘆いていました。もう少し会社側の配慮も必要かと思いますが、これについて何か支援できることはないでしょうかねえ・・・?」というように、さらに受講者の問題について考えた人もいた。

大学生のTAは同年代の働く受講者を「大人」と感じ、自分自身を「大学生は『成人しているが、学生なので大人であり子どもでもある』と言われるますが、子どもだなと感じました。」と述べている。社会の一端を経験でき、自分を見つめなおすきっかけに繋がった。

5. 事業の成果

5.1 受講者

受講者に関する事業の成果は、まず、日本語学習の機会を多くの人に提供できたことである。受講者は述べ人数で昨年度の倍の211人に上った。

次に、この教室の宿題や課題などをきっかけにして、日本語での会話が上達したことである。授業内では少人数で話す時間を長くとることができ、授業外でも日本人にいろいろな質問をすることにより、コミュニケーションの機会が増えた。「3.1.5 受講者の自己評価」でも示したが、終了後アンケートでは「前より話すことができるようになった」が回答者の63%、「前より聞いてわかるようになった」が53%であった。このように受講者に上達の実感があり、講師やTAの目からも上達が見られたことから、週一回の授業であっても継続することである程度の効果があることは明らかであり、日本語学習継続の重要性が確認できた。

また、「次の日本語クラスがあったら参加しますか」という3期のアンケートの間には、全員が「はい」と答えている。毎期のアンケートの自由記述には「もっと勉強したい」という声があり、3期では「日本で勉強したり仕事をしたりする機会が増えるように、先生たちの助けを待っています。」「このような授業を受けられるチャンスが増えることを願っています。」というように次のコースの開催を求める声も多くあった。

さらに、facebookでの活動を通して、受講者が日本語での交流や発信ができたことも成果といえるだろう。多文化共生社会を目指すうえで日本人と外国籍住民のこうした交流の場は重要である。そのため、facebookグループは、当面、存続させる予定であり、TAはコース終了後も投稿を続けている。

5.2 TA

TAに関する成果としては、まず、外国人支援に対するマインドや態度が大きく変わったことである。受講者と接したことにより、会ったときに挨拶するようになったり、何かしてあげたいという気持ちを持ったという人から、さらに、地元地域での取り組みが気になり、問い合わせた人や、地元での日本語学習支援の必要性を感じ、行動に一步踏み出した人達もいる。このオンライン日本語教室開催中に、雄武町から参加したTAは「おうむ日本語交流クラブ“あいうえお”」を立ち上げた（これについては「5.3地域への波及効果」で詳しく述べる）。このことに刺激を受け、自分も活動できないか考えはじめたTAもいる。

次に実際の日本語教育の教室を体験したことによる成長である。実際の授業を見て、TA自身の学習支援の方法や教え方を振り返るきっかけとなったり、学習支援についてのイメージを具体的に持つことができたりした。

また、facebookでの交流を深めるにあたり、受講者に寄りそう姿勢も見られた。受講者がどのようなことに興味をもっているのか、どのような話題がよいのかなどを考え、分かりやすい表現や語彙に工夫を凝らすなどしていた。こうした姿勢は、多文化共生社会においては、欠かせないものである。

5.3 地域への波及効果

5.3.1 2021年度

昨年度の報告の中には記載できなかったが、2021年度の受講者の中で強く継続の希望があった砂川市のベトナム人受講者に、当センターの講師の伝手で近隣の赤平市在住の日本語教師を紹介した。昨年度の日本語教室終了後に週1回の勉強を続け、JLPTのN3に合格した。その後、この日本語教師が滝川市の日本語学習支援教室の立ち上げに関わり、砂川市の元受講者もこの教室に毎回参加し、日本語を学びたい気持ちを継続することができている。

オンライン日本語教室終了後も学習を続けたい人は多いが、地域に住む日本語教師は少なく、昨年度の事例のように、継続して地域で勉強できる場を得られたことは、当センターの日本語教育関係者とのネットワークや、各地での日本語教室立ち上げへの支援が、地方在住の外国人の日本語学習の場の創出につながった一例である。

5.3.2 2022 年度

本オンライン日本語教室において TA 参加の目的の一つとして、TAとして参加した人に日本語教育や学習支援の方法を学んでもらい、地域の日本語学習支援者としての活動を促すものがあった。雄武町から参加した TA 2人は、2020年度北海道主催の「日本語学習支援者養成講座」の参加者であった。雄武町では外国人技能実習生が増えていて、日ごろから、そうした人たちへの関心は高かったようであるが、コロナ禍もあり、具体的に考えるところまで至っていなかった。しかし、今年度のオンライン日本語教室の TA に参加したことがきっかけとなり、コース半ばで、「おうむ日本語交流クラブ“あいうえお”」を立ち上げた。受講者を中心に月に1、2回程度開かれていて、活動内容には、このオンライン日本語教室の復習なども含まれている。

*雄武町観光協会 facebook より

”こんにちは”からはじめよう 《おうむ日本語交流クラブ”あいうえお”》

投稿日: 2023-01-31 投稿者: F-MIURA

2020年に雄武町で開催した【日本語学習支援者養成講座】を受講した町民が中心となって、町で働く技能実習生のための交流の場を作りたいと《おうむ日本語交流クラブ”あいうえお”》を発足し、1月29日に図書館で初めての交流会を開きました。



現在3月まで行われている全道の技能実習生に向けた「オンライン日本語教室」を受講中のベトナム人を中心に参加を呼びかけると、町内の水産加工場に勤務する7名が参加してくれました。参加者には手作りの50音表がプレゼントされ、まずは自分の名前を書くことから始まりました。



オンライン授業で行っているN4の教材を使って、復習をします。動詞や形容詞など、普段わたしたちが普通に使いこなしている【日本語】ですが、一緒に勉強してみると、その難しさがわかります。それでも、皆さんは本当に一生懸命に声に出して、練習をしていて【日本語の勉強がしたい】という気持ちが伝わってきました。

日本語教室で欠席が続いていた数人の受講者が、「おうむ日本語交流クラブ“あいうえお”」が立ち上げられて以降、休まず参加するようになった。実際に会って、声をかけられたり、励まされたりしたことで、また参加しようと思ったのではないだろうか。

日本語学習支援の教室では、どのようなことをするのか、何を行えばよいのかは日本語教育に携わっていない人には想像しにくい。この雄武町の2人のTAは、北海道の事業で日本語学習支援の基本を学び、JICA 北海道の事業で日本語授業と学習支援の実際を経験したことにより、日本語学習支援教室の開催に踏み出せた。日本語学習支援者養成の講座で学んだあとに、実践の場として、今回のような実際の日本語教室を体験することが、地域での教室を開き、日本語教室空白地域を減らしていくためには、重要である。

6. 実績評価

実績については、まず、昨年度に引き続き、道内全域で、無料で学習できるオンライン日本語教室を開催し、日本語学習の機会を提供できた意義は大きい。交通の便や冬季の天候などもあり、コロナが落ち着いた状況でも北海道ではこのようなオンラインでの開催が適当であると考えられる。

次に、講師が経験豊かな日本語教師であったことは重要である。TAも含め大人数のクラスであったが、大きな混乱もなく授業が進められたのは、講師とZoom管理の補助講師が共にオンライン授業やTA参加の授業の経験が豊富であったからである。大人数の中で、受講者のレベルを見極め、適切なブレイクアウトのグループを編成するには日本語教育の知識も必要である。今回のコースでは、満足度も高く、対面の日本語学習機関で学ぶのと変わらない教育効果を提供できた。

また、TAに関しては、応募者の中には、在住ベトナム人(1人)と中国人(1人)からの応募もあり、中国人は無償のTAを2期務めた。このように地域に住む日本語が堪能な外国人と共に日本語学習支援を進めて行くことは、これからの多文化共生社会では重要なことであると考えられる。

さらに、「5.3.2 2022年度」で述べたように、雄武町で始まった学習支援教室は、このTA参加のオンライン日本語教室が、地域での日本語学習支援教室の設立に大きく寄与したことを示している。この設立に大きな刺激を受け、他のTAも地元で学習支援教室を計画している。これは大きな波及効果である。

7. 改善点の検討

7.1 受講対象者

今年度は、技能実習と特定技能の在留資格で働く人に限ったが、外国籍住民は道内各地に散在しており、日本語教育の機会が必要なのは技能実習と特定技能の人だけではない。また、札幌圏には多くの日本語教室があるが、夜や土・日に開催しているところは少ない。こうした、身分や居住地による制限を設けず、可能な範囲受け入れても良いのではないかと考える。

7.2 コース・定員

クラスは初級、中級の2クラスであったが、人数が多かったこともあり、特に初級のクラスの中でのレベル差が目立った。ひらがな、カタカナの読みがあまりできない人もいたため同様の事業を実施する場合には、初級、初中級、中級の3レベルでの展開が望ましい。

開講日時は、事業実施期間内で同じ曜日で24回行うことが難しかったため、金曜日を主とし火曜日を組み合わせた。1週間に2回行うよりは、毎週1回決まった曜日で行う方が分かりやすく出席しやすいと考える。週1回

のペースで24週間を確保できるように事業の実施期間について検討することを提案する。

また、コース終了後のアンケートでは回答者全員がコースの継続を望んでいた。半年間の事業ではなく、通年のコースの開講検討を望む。

定員に関しては、3倍を超える申し込み者がいて、さらに締め切り日を過ぎてからの問い合わせがあったことを考えると、各クラス20人の定員は少なかった。今回のように定員にとらわれずに柔軟に受け入れても良いと考える。

7.3 TA

今回の有償と無償のTAの活動に大きな差はなく、今後はやはり全員を有償にすべきであると考えている。また、今回外国籍住民がTAとして参加したように、TAは、日本人に限らず、日本語上級の外国籍住民が日本語学習支援に参加することを今後も考えるべきである。

7.4 SNS での交流

facebook での交流を楽しんでいたようであるが、あまり使っていないという人もいたため、どの SNS を使うかなど、今後も検討の余地がある。投稿の仕方などを実際に練習した受講者は、その後も投稿していた。SNS を使うならば、どれであれ、その参加方法、投稿の方法などを学ぶ時間を取ったほうが良いと考える。

8. まとめ

今年度の事業を終え、3つの提案を行う。まず今後も全道をカバーするオンラインの日本語教室の継続である。今年度のように経験豊かな日本語教師とTAが参加するオンライン日本語教室の開催が今後も必要である。

<オンライン日本語教室の一例>

受講者 : 外国籍住民(但し、日本語教育機会がある学生とN3合格以上の日本語力を有する人を除く)

クラス : 初級・初中級・中級の3レベル

定員 : 30人程度(柔軟に対応する60人ぐらいまで)

期間 : 通年で週1回

講師 : 日本語教師

TA : 受講者4~5人に1人程度の割合

教科書 : 各国語版があるものが望ましい

*オンライン上で受講者同士の交流の場を作るとともに、講師、TA、地域住民などと対面のイベントを行う。

次に、外国籍住民が多い地域に、対面で気軽に日本語で交流できる日本語学習支援教室の設立を促す事業を開催することである。本オンライン日本語教室運営事業では、雄武町の例はあったが、簡単にこうした教室ができるわけではないため、「日本語学習支援者養成講座」「やさしい日本語講座」「多文化共生に関する講座」などを地域で開催し、地域住民に日本語学習支援や多文化共生についての関心を持ってもらうことが必要だろう。こうした講座に参加した人がオンライン日本語教室のTAとなり、その経験を地域での活動に活かしてもらいたい。

最後に既存の日本語ボランティア教室や日本語学習支援教室に参加している人達への支援も必要であると考え

える。実際に活動していると、どのように交流活動を行うのか、どう教えたらいいのか迷うことも出てくる。経験豊かな講師とともにそうした問題を考え、学ぶ、「支援者のブラッシュアップ講座」のようなものを開催して円滑に支援ができる環境を整えるべきである。